

学びの直送便

～ 講座速報 ～

今回の「学びの直送便」では12月に実施された2講座を紹介いたします。「力のある学校づくり」「ネットいじめ」や「自殺予防」…。喫緊の教育課題に関する講座の内容を御覧ください。

学校づくりのヒントが満載！格差を克服する学校への第一歩

最新教育動向講座Ⅲ～力のある学校をつくる～(12/14) ※校(園)長対象講座

大阪大学大学院 志水宏吉 教授、福知山市立桃映中学校 一ノ瀬明美 校長



大阪大学大学院の志水宏吉教授から「児童生徒や教職員をエンパワーする学校をつくる」と題して講義いただきました。新学習指導要領のコンセプトと関連付けながら、学力格差の実態を子どもと地域・家族・学校との「**つながり格差**」の視点で捉え、その**格差を克服している学校の特徴や実践例**を示していただきました。志水教授が提唱されている「**力のある学校**」の「**スクールバスモデル**」の考え方をもとに、学校がチームとして機能するため、校(園)長のリーダーシップの大切さについても示していただきました。

また、**京都市「効果のある学校」推進事業**に取り組まれている福知山市立桃映中学校の一ノ瀬明美校長から「児童生徒の夢が芽生え育つ教育について」と題して実践発表をしていただきました。基礎学力定着のための仕掛けづくりや、保護者・地域と連携・協働する学校づくり、チーム力を発揮する組織づくり等について、具体的な例を挙げて発表していただき、実践への大きな刺激となりました。

京都市「効果のある学校」推進事業

困難な状況に置かれている児童生徒をはじめ、**すべての児童生徒の基礎学力の充実と希望進路の実現を図る**学校づくりを推進することを目的に、大学教授等による「**学校経営・組織体制**」「**発達障害・不登校**」「**幼児教育**」の3つの専門家チームを小・中学校に派遣するとともに、学区の地域をつなぐ「**まなび・生活アドバイザー**」を配置し、学力課題の調査・分析や指導、地域のネットワークづくりを実施している。

実践発表を受けて、志水教授から「学力格差とその克服に向けて」について講義いただきました。学力の構造を「**学力の樹モデル**」で捉え、その中でもテストで測れない「**根の学力**」を自己効力感や学習習慣、目的意識等を意識しながら身に付けさせることの大切さを学びました。



どう向き合う？ 喫緊の教育問題を最新の情報から考える

副校長・教頭・事務長講座 (12/4)

佛教大学 原清治 教授
関西外国語大学 新井肇 教授
岐阜聖徳学園大学 玉置崇 教授



午前は「ネットいじめはなぜ『痛い』のか」と題して、原清治教授にお話しいただきました。「**ぼっち席**」「**便所メシ**」「**マスク文化**」など

の実例から「**友達のいないヤツと思われたくない**」「**マスクをしていると安心できる**」という現代の若者に見られる人間関係の特徴について学びました。また、**子どものネット利用についての実態、いじめへの対応のあり方**については**啓発活動の有効性**や**ソーシャル・スキルを高めることの必要性**など、豊富な具体例と巧みな話術で講義いただきました。

午後の最初は「児童生徒の自殺予防」について、新井肇教授に講義いただきました。**自殺予防教育**の方向性について「**現実と非現実の区別**」「**多様で豊かな人間関係の体験**」など、具体例とともに示していただきました。なお、新井先生は独立行政法人教職員支援機構「校内研修シリーズ」の講義動画で「**自殺予防**」「**生徒指導**」を担当しておられます。



最後は玉置崇教授に「**新学習指導要領を踏まえた元気になる学校づくり**」について講義いただきました。教師間の壁をなくす「**1分間スピーチ**」や教師と生徒の壁をなくす「**中庭ライブ**」など多くのアイデアが満載の内容で、題名どおりに受講者を元気づけていただきました。

受講者の声

原先生に御紹介いただいた「**否定的な言葉を用いない授業**」は大変興味深かった。

自殺予防教育は難しいと思っていたが、新井先生の講義を聞き、**生徒と豊かな関係をつくる**よう、教員に働きかけたいと思った。

玉置先生の基本姿勢「**やってみなけりゃわからない**」「**見える化と価値づけ**」「**感謝を忘れない**」などの考え方を精励したい。



「今、できること」「支援のスタンス」「チーム支援」に続く今回のテーマは「学校・教室への復帰に向けて」です。「学校に戻る」ということは一見ゴールのように思いがちですが、子どもたちの心の中には不安や焦りなど様々な思いがあります。

「学校に戻る」ということ

学校・教室への復帰に際しては、慎重な対応が求められます。特に長く学校を離れていた子どもにとって**「学校に戻る」ということは、教師や保護者の想像を超える大きなエネルギーが必要**なのです。

心の準備を最優先に

長く休んでいた子どもが学校に再登校する場合、教室に入る心の準備が整うまでは、場合によって保健室や別室で過ごすという選択肢を認めるなど、**柔軟な対応**が必要です。

安心できる環境づくり

学級の受け入れ準備も大切です。「みんなに注目されるのはイヤだな」「何を尋ねられるかな。答えられなかったらどうしよう」という不安を抱える子どもは少なくありません。保護者の理解を得た上で**本人のことを学級の子もたちと共有し、理解を促しておく**ことが大切です。

無理なく一歩ずつ前進

久しぶりに教室に入った子どもは元気そうに笑顔を見せて振る舞うかもしれませんが、しかし、その姿の内側では、教室にいることに相当なエネルギーを使っています。戻りはじめの時期には本人の意思を確認し、その日の過ごし方を本人と一緒に考え、**決して無理をさせない**ことが重要です。

漏れなく引き継ぎ、継続した支援を

進級や進学など、次の学年へ進む際に重要なことは『引継ぎ』です。「どのような経過でどのような対応をしてきたのか、現在どのような状況であるのか」を引き継ぐことが求められます。「今までの経過を聞いていません」と言われた保護者の落胆は、新担任のみならず学校への信頼をなくすことにもなりかねません。保護者の了解のもと、**養護教諭など複数の教員で学校として組織的に引継ぎ**を行い、「今までの経過は聞いていますよ」と保護者に伝え、安心してもらえる状態で、新しい学年をスタートさせることが大切です。

楽しい「学び」を支える高校生のがんばり

～平成29年度 手作り府民講座「親子おもしろ学び教室」～

400名以上の御参加
ありがとうございました！

12月9日（土）、府内小学校、義務教育学校、特別支援学校小学部の児童と保護者を対象に、総合教育センター北部研修所で「平成29年度手作り府民講座」を開催しました。



「理科嫌い、算数嫌いの子もたちに親子で楽しく体験して学ぶ楽しさを感じてもらおう」という思いで始まったこの取組も**今年で18年目**！当日は全12のコーナーを実施。昨年に続き、今年も2つのコーナーで高校生のがんばる姿が光りました。

府立海洋高校の「海を知ろう」というコーナーではロープワークを丁寧に教えてくれました。また、府立工業高校のコーナー「ロボットを動かそう」では、コンピュータを使ってロボットを動かしてくれました。



海洋高等学校「海を知ろう」



工業高等学校「ロボットを動かそう」

「チリモン見つけたー！」と明るく弾む子どもたちの声、親子で一緒にしおりを作ったり化石を探したりする姿、少しでも分かりやすく説明しようと工夫する高校生のがんばりなど、体験を通して楽しく「学ぶ姿」が会場にあふれました。



「教職員の働き方改革」最新の動向

今回の「TOP RUNNER」では「教職員の働き方改革」に関する文部科学省等と京都府の動向に注目しました。

京都府の動向

○京都府教育委員会

・平成30年度に「教職員の働き方改革」を総合的に推進するため、小学校専科指導に必要な教員の充実等「**学校運営・指導体制の構築**」、SC、SSW等「**専門スタッフの配置促進**」、休業日の設定等「**部活動運営の適正化**」等を重点事項とし、取組を進めています。

○京都府PTA協議会・京都府立高等学校PTA連合会

・昨年10月、府・各市町（組合）教育委員会と緊密に連携し教職員の働き方改革を応援する旨の「**教職員の働き方改革を応援する緊急アピール**」を発表。

《詳細はこちら》

京都府教育委員会ホームページ
⇒府教委の方針「教職員の働き方改革」
⇒「NEWS」

文部科学省等の動向

12月22日、文部科学大臣の諮問機関・中央教育審議会において「**学校における働き方改革に関する総合的な方策（中間まとめ）**」が取りまとめられ、次の観点（一部）において取り組むべき具体的な方策が示されました。

○学校・教師が担う業務の明確化を通じた役割分担と業務の適正化

・「学校以外が担うべき」「教師が担う必要がない」「負担軽減が可能」に整理
・業務の整理を参考に具体的な削減目標を設定して業務の総量を削減

○勤務時間に関する意識改革と制度的措置

・タイムカード等による勤務時間の把握と勤務時間を考慮した業務の設定
・スポーツ庁作成予定のガイドラインを踏まえた部活動加時間・休養日の設定

○「学校における働き方改革」の実現に向けた環境整備

・小学校英語教育の早期化、教科化に伴う専科担当教員の充実等の学校指導体制の充実
・SSW、部活動指導員等の専門スタッフの配置促進

これを踏まえ12月26日、文部科学省では「**学校における働き方改革に関する緊急対策**」が取りまとめられました。